



問合先 公益財団法人沖縄県文化振興会
〒901-0152 沖縄県那覇市字小禄1831-1 沖縄産業支援センター6階605
098-987-0926(土日・祝祭日を除く平日9時~17時)
info@okicul-pr.jp

写真提供:国立劇場おきなわ

見て、感じて、
沖縄芸能って楽しい!



麗しき芸を巡る
南の島にちりばめられた



沖縄には歌があります。歌とともに育まれてきた、踊り、音楽、芝居があります。大小160の島々からなる麗しき南国リゾートは、一步足を踏み入れると、芸能王国の横顔をのぞかせます。

古の王朝時代から沖縄の人々は、青い海を眺めながら詩を作り、砂浜を歩いて歌を歌い、照りつける太陽の下で踊り、三線を奏でてきたのです。

南の島の日常に息づく、そんな芸能の数々を、ゆっくりとご覧下さい。



世界を魅了する 王朝の舞と調べ

ユネスコ無形文化遺産に登録された組踊、
古典から創作まで幅広い琉球舞踊、
華やかな舞台を音で彩る三線音楽。
琉球王朝時代に花開いた宮廷文化が
今もお受け継がれています。



組踊

琉球王朝時代の18世紀初めに、
玉城朝薫(たまぐすくちょうくん)という
人物が今でいうプロデューサーと
なって、中国の使者(冊封使)を歓待
するために創作した歌舞劇です。琉
球の歴史や古くからの言い伝えをも
とに、これまで70点余りの作品が編
み出されてきました。組踊は能楽や
歌舞伎などと並ぶ国指定重要無形
文化財であり、ユネスコの無形文化
遺産にも登録。日本を代表する古典
芸能として、世界各国から訪れる
人々をもてなしています。

琉球舞踊

組踊が完成するはるか以前から、
琉球王朝の宮廷芸能として発展し
てきました。紅型の衣裳と優雅な身
のこなしで観客を魅了する女踊をは
じめ、若衆踊、老人踊、二才(にー
せー)踊と呼ばれる踊りの種類があ
ります。明治時代以降は民間にも広
まり、伝統的な古典舞踊が受け継が
れる一方で、庶民のくらしや感情を生
き生きと表現した雑踊り、戦後に誕
生した創作舞踊が、琉球舞踊の新し
いスタイルとして確立しました。

古典音楽

沖縄の代表的な音楽といえば、全
国でも親しみ深い歌三線。8・8・8・
6音の言葉をつなぐ「琉歌」のリズ
ムで歌詞をつくり、「工工四(くんく
んしー)」と呼ばれる独特の楽譜にの
せて、メロディーを奏でます。組踊や
琉球舞踊の舞台には、歌三線のほか
箏、笛、胡弓、太鼓などの伴奏楽
器も登場します。沖縄の芸能には欠
かせない、大きな役割を担っています。



大衆に愛された 芸能文化が脈々と

先祖崇拝に即した旧盆行事のエイサー、
明治期以降に広まった
ウチナーグチによる沖縄芝居。

時代を超えて親しまれている芸能文化には、
庶民の生活と感情が生き生きと表現されています。



✿ エイサー

沖縄の旧盆の最終日(旧暦7月15日)に行なわれる、先祖供養のための念仏踊りです。歌三線の調べにのって、太鼓をたたいて踊りながら、集落内を練り歩きます。現在は青年会が中心となって取り組んでおり、地域によって踊りや衣装にもさまざまな特徴が見られます。

✿ 沖縄芝居

沖縄芝居が誕生したのは明治時代の中頃です。庶民のくらしや悲恋を描き、セリフを歌で表現した「歌劇」と、時代劇を中心に、日常の方言に近いセリフで演じる「方言せりふ劇」の2種類があります。現在も大衆演劇として多くの人に親しまれ、各劇団が「母の日」に行なう特別公演は、毎年の恒例行事になっています。

✿ 獅子舞

沖縄では古くから、獅子は邪気を払うものとされ、豊年祭などで獅子舞が演じられてきました。デイト製の獅子頭や芭蕉の繊維でできた胴体は、沖縄特有のもの。舞い踊る姿も動物的でダイナミックです。現在も県内各地にたくさんの獅子舞が伝承されています。

✿ 民謡

人々の生活の中から生まれた民謡は、島や地域ごとにさまざまな歌が伝わり、庶民の間で歌い継がれてきました。歌詞にもその土地ならではの方言が入って、独特の空気感や匂いまで感じられます。明治期以降になると、三線の伴奏にのせて歌うスタイルが主流になり、今もなお盛んに新たな歌が創られています。



新 世 芸 能

しげいのう

組踊やエイサーにも、
新たな潮流が生まれています。
最先端の技術を取り入れながら、
見る人の心を揺さぶるような、
新作・創作が次々と誕生しています。

時代の風を感じる
ニューウエーブ



❁ 創作組踊

音楽や演出方法に趣向を凝らし、新しい地平を開いた組踊のスタイルです。セリフ・踊り・音楽の3つの要素で構成された組踊の基本ルールは踏まえつつ、作品の題材は自由。子どもでも親しみやすい身近なテーマから歴史ファンタジーまで、意欲的な作品が次々と生まれています。

❁ 創作エイサー

伝統的なエイサーをベースに、振り付けや音楽を自由にアレンジした新しいスタイルのエイサーです。県内にとどまらず、県外・海外にも創作エイサーの愛好団体があり、毎年開かれる「世界エイサー大会」には多くのチームが参加。一つのエンターテインメントとして沖縄芸能を発信しています。

❁ 新沖縄芸能

古典のみならず新作も数多く生まれている沖縄芝居。“ウチナーヤマトウグチ”といわれる沖縄風大和言葉でセリフを構成したコメディや、古典音楽とバイオリンのセッションが楽しめる歌舞劇や、現代音楽とダンスによる演出を加えた「現代版組踊」など、年齢を問わず初心者でも楽しめる作品が増えています。

主役は地元の中高生。現代版組踊の魅力

2000年初演の「肝高の阿麻和利(きむたかのあまわり)」を機に、新たな沖縄芸能として定着した現代版組踊。大きな特徴は、各作品の舞台となる地域の子どもたちが中心となって運営していることです。役者として舞台上に立つ者もいれば、音楽やダンスで会場を盛り上げる者、あるいは裏方に徹する者もいます。こうした舞台経験は子どもたちにとって、故郷の誇りと魅力を自発的に発見する、生きた教材になっています。

音楽織物

おの りも の

沖縄芸能を支える 数々の名脇役

独特の音階を奏でる三線などの楽器や、
紅型をはじめとする伝統衣装は、
沖縄芸能を構成する大切な要素です。

三線・音楽

琉球王朝時代から戦前・戦後を通じて、この島の歴史を見続けてきた三線は、沖縄の人にとって心の宝物のような存在です。木製の胴の両面にニシキヘビの皮を張り、棹にわたした3本の弦を、水牛などの角でできた爪ではじいて演奏します。エイサーでおなじみの締め太鼓や横笛なども、沖縄音楽特有のリズムや情感を表すのに欠かせない楽器です。

紅型(びんがた)

沖縄の代表的な染色技法です。本土でもなじみ深い「型絵染」の工程で、どんなに複雑な模様も一枚の型紙だけで染め上げる点が大きな特徴です。琉球王朝時代は士族階級以上だけが着用を許されたため、色鮮やかで繊細な絵柄の着物が数多く作られました。最近では琉装や和服以外にも、Tシャツ、バッグなど身近なものにも使用され親しまれています。



撮影協力：城間びんがた工房

芭蕉布(ばしょうふ)

バナナの一つ、イトバショウの繊維を糸に用いた沖縄独特の染織物です。軽くてさらりとした生地、風合いは、蒸し暑い南国の気候風土に適し、王族から農民まで古くから日常の着物として愛用されていました。雑踊りや沖縄芝居の舞台に芭蕉布を着た役柄の人物が立つと、それだけで“沖縄らしさ”が引き立ち、臨場感が一層高まります。



写真提供：Okinawa Convention & Visitors Bureau

緋(かすり)

緋とは、所々に“かすった”ような模様を織り込んだ織物のこと。あらかじめ染色した糸を縦と横に組み合わせながら、決められた図柄に織り上げていきます。緋は昔から日本全国で作られてきましたが、もともとは琉球の緋がルーツになったといわれています。緋製品は現在でも人気が高く、観光みやげとしても好まれています。



撮影協力：琉球緋事業協同組合

くるちの杜100年プロジェクトin読谷

宮沢和史さんが発起人となって、2012年から読谷村で始めた「くるちの杜100年プロジェクト」。くるちとは三線の棹の原材料となる黒木のことで、材質が硬くて反りや狂いが生じにくく、最良の棹材といわれています。しかし県内ではほとんど採取できず、海外からの輸入に頼っているのが現状です。同プロジェクトでは100年後に県産黒木で三線を作ることを目標に、毎年植樹を続けていく計画です。



Giry Vincent INTERVIEW

ジリ・ヴァンソンインタビュー

フランスから来日したタレントのジリ・ヴァンソンさん。海外向けテレビ番組で全国各地を巡ったヴァンソンさんが沖縄を好きになったのは、文化も人も景色も気候も含めた空気感だった。現在沖縄を視察に生活しているヴァンソンさんに、沖縄の文化や伝統芸能との出会いや思いを聞いた。

沖縄の伝統芸能体験の魅力

Profile

フランス出身俳優・マルチタレント。幼少の頃より日本に興味を持ち、その頃から演技や歌をはじめ、中学から8年間劇団、4年間合唱団に所属。ボルドー第三大学日本語学科を卒業する。2000年獨協大学での短期留学のため来日、2001年に日本のメディアデビュー。出演作品：映画「のだめカンタービレ最終楽章・前編」、映画「宇宙兄弟」、沖縄テレビ (OTV) レギュラー番組「OKINAWA MONDE W・ALKER」等多数出演

◆ 沖縄の伝統芸能との出会い

「沖縄の伝統芸能との出会いは母と初めて沖縄を訪れた際、泊まっていたリゾートホテルで見た琉装による歓迎の舞でした。番組で全国各地を回っていた経緯もあり、行く先々のおもてなしや伝統芸能を見ていたのですが、本土は地方が違っても結構似ている部分が多いんですね。ところが沖縄は一味違う特有の感じだったので、日本ではあるけれど少し外国っぽい印象がありました。沖縄の伝統芸能にも上品さはあるけれど、それよりも太陽と砂と海の香りがする明るさがあった。当時あまり沖縄の文化を知らない人からしても、鳴り響く音からトロピカルな地域

だなとすごく伝わってきましたね」。フランス出身のヴァンソンさんから見た沖縄の芸能は、沖縄の風土そのものを感じる踊りだったようだ。

◆ 体験して文化に入り込む

過去に番組で三線などの体験はあったというヴァンソンさんが、琉球舞踊の四つ竹体験プログラムは今回初めての挑戦となった。「まず、楽しかったです。琉球舞踊や組踊、四つ竹は基本見るものなので、実際にできるのはすごく珍しいという感覚がありました。リズム感があまり良くないので不安はあったのですが、教え方がとても優しく、ゆっくり段階を踏んでという形だったこともあり、『できた!』という満足感がすごくあったのは予想外でした。それはやはり音に乗りたい気持ちと、衣装を着てよりリアルにその文化に入り込む感覚があったからですかね。僕には言語サポートは必要なかったのですが、外国の方でもジェスチャーを真似すればできるので、言葉が伝わらなくても体験できるのは一つの魅力だと思います。自分がやって

みて大変だった実感がある中で、プロの方がやっているのを見るとより深い魅力に寄り添える感じがしましたね」。ヴァンソンさんは実際に体験することで、伝統芸能の高い技術や魅力を感じ、鑑賞するだけでは得られない奥深さに触れることができたのかもしれない。

◆ 優しい心にさせる魅力を持つ

沖縄の伝統芸能

ヴァンソンさんが感じる沖縄の伝統芸能の魅力についても聞いてみた。「琉球舞踊や組踊は、能や歌舞伎にも共通しているのですが、一つ一つの動きの緩やかさと緻密さの全てが丹念に計算されていて、演者さんの体のコントロールがすごく伝わってくるんですね。それはやはり争いを避ける、精神のコントロールができる日本の文化らしさが根本にあるんですね。



もちろん沖縄の伝統芸能の中にも入っていますし、さらにそこに歓迎の心が加わってコントロールと優しさの両方がうまく出ていると思うんです。静けさとおもてなしの心、歓迎の心、それを優しさという言葉で一つにまとめられるかもしれないですね。芸能自体も優しいのですが、癒される感覚もあるので周りをも優しい心にさせる魅力があると思います」。受け身になりがちな観光旅行に「体験」する時間をつくることで、その地域の文化に入り込み、優しさや癒しを感じることができるのではというヴァンソ



ンさん。最後に「『体験』で身につけた感覚は持ち帰れるので、いつまでも旅の思い出が深く残るよ」と笑顔になった。ヴァンソンさんのような外国人に限らず、「体験」することで得られる特別な魅力が伝統芸能にはあるようだ。風土や世界遺産、独特の食文化、そして伝統芸能。沖縄の魅力を存分に満喫すべく、伝統芸能の「体験」も醍醐味の一つとして旅の1ページにぜひ加えてほしい。

【体験の旅スペシャル】「沖縄伝統芸能体験！」
(沖縄県文化振興会)

◆ プチ OKINAWA TRAVELLER

毎週木曜夜配信

[www.youtube.com/PetitOkinawaTraveller](https://youtube.com/PetitOkinawaTraveller)

フランス生まれで沖縄在住のジリ・ヴァンソンさんと、アメリカ生まれのクリスタルさんの沖縄を愛する2人が、リポーターとなって、リアルな沖縄の魅力やお出かけ情報を紹介したり、体験することで、「外国目線で沖縄を再発見する」新感覚ネット番組です。



今回は観光客も楽しめる琉球舞踊の四つ竹体験や、琉装の着付け、沖縄の伝統芸能を旅行者も体験できるプログラムとして実施しているということで、ヴァンソンさんとクリスタルさんが取材しました。

観光関連事業者の方はこちら
(事業紹介動画)<https://youtu.be/gUIPuOfBKts>



TRIP x CULTURE
沖縄の文化体験情報サイト

<https://tricul.okinawageinodays.com>



沖縄芸能マグネットコンテンツ公演

沖縄の「伝統芸能」を体験型観光の「魅力」の一つとして「鑑賞の楽しさ」をお伝えする芸能舞台プロジェクト。沖縄芸能の「今！」を感じさせる舞台作品を、沖縄県が毎年ピックアップして紹介。

紹介サイト ▶▶▶

<https://okinawageinodays.com/>



せやろがいおじさんと伝統芸能を学ぼう (全3回)



伝統芸能の鑑賞ポイントを、国立劇場おきなわの芸術監督を務めた嘉数道彦さんが解説！せやろがいおじさんの素朴な疑問に、嘉数さんがお答えします♪



かりゆし芸能公演
チャンネル ▶▶▶

<https://www.youtube.com/@user-eg7rs3oe5e>



かりゆし芸能公演



かりゆし芸能公演は、沖縄県民及び来県者に伝統芸能の鑑賞機会を提供するほか、若手実演家の育成や、次世代を担う子どもたちが伝統芸能に触れる機会を創出することを目的とした公演です。琉球舞踊、組踊、三線等音楽、沖縄芝居等を幅広く実施しています。



かりゆし芸能公演 ▶▶▶

<https://www.okicul-pr.jp/kariyushi/about/>



鑑賞

かんじょう

劇場へ いこう!!

迫力と感動のステージをライブで体感。今もなお息づき、進化し続ける沖縄芸能を肌で感じるために、気軽に劇場へ足を運んでみましょう！

国立劇場おきなわ

全国で5番目の国立劇場として2004年に開場。館内には大劇場と小劇場があり、組踊の定期公演を中心に、琉球舞踊、沖縄芝居、三線音楽など、さまざまな伝統芸能の催しが開かれています。舞台横には標準語の字幕が表示されるため、方言が分からない人でも安心して鑑賞できます。公演情報はホームページでご確認下さい。



詳しい情報はWEBサイトで検索!

国立劇場おきなわ
www.nt-okinawa.or.jp



公益財団法人沖縄県文化振興会
www.okicul-pr.jp



一般財団法人
沖縄観光コンベンションビューロー
www.okinawastory.jp



TRIP × CULTURE
沖縄の文化体験情報サイト
<https://tricul.okinawageinodays.com/>

